



市民等の意見の聴取について

聞き取り調査をどうするか

目的とその対象、及び調査方法

1. 市民意識を知る。

事業の賛否
事業や環境の価値に対する理解度
事業に対する不安や期待

一般市民
アンケート
・無作為抽出し郵送
・市役所にて聞き取り
・市役所にて企画展の場で

学生
アンケート
・学校の協力を仰いで配付・回収

中心市街地で商売を営んでいる方
インタビュー
・直接現地にて聞き取り

2. 広報をする。

情報公開
市民参画を促す

3. 事業者以外の情報を収集する。

学術団体
反対している団体
ヒヤリング
・時間を制限しての説明
・質疑応答

4. 争点の特定をする。

賛否の根拠の確認

推進している団体
反対している団体
ヒヤリング・公聴会
・時間を制限しての説明
・質疑応答

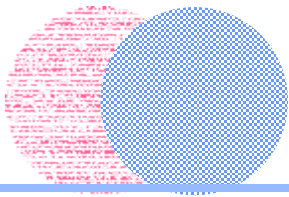
6. 事業を知る。

埋め立ての根拠
事業の必要性
中部圏域の活性化

事業者
ヒヤリング
・時間を制限しての説明
・質疑応答

5. 市民と行政の連携の具体例を知る。

環境保全にかかわる市民及び行政
ヒヤリング



調査を行なうにあたっての留意事項

一般市民
アンケート

- ・無作為抽出し郵送
- ・市役所にて聞き取り
- ・市役所にて企画展の場で

全市民(126,400人 平成17年現在) : 国勢調査より
有権者(96,813人 平成18年現在) : 平成18年版 沖縄市統計書より

学生
アンケート

- ・学校の協力を仰いで配付・回収

沖縄市内中学校
8校 5,035人(H17現在)
沖縄市内高等学校
5校
沖縄県内大学・短期大学・高等専門学校
9校

課題

項目作成

日程の確保

予算

中心市街地で商売を営んでいる方
インタビュー

- ・直接現地にて聞き取り

市内各通り会(26通り会)、商工会議所等

学術団体
反対している団体
ヒヤリング

- ・時間を制限しての説明
- ・質疑応答

環境保全にかかわる市民及び行政
ヒヤリング

推進している団体
反対している団体
ヒヤリング・公聴会

- ・時間を制限しての説明
- ・質疑応答

事業者
ヒヤリング

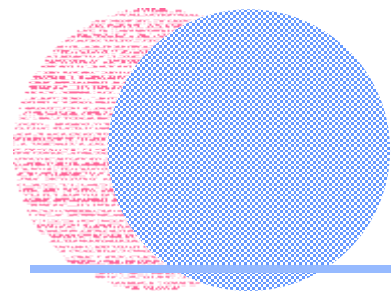
- ・時間を制限しての説明
- ・質疑応答

課題

公開非公開の判断

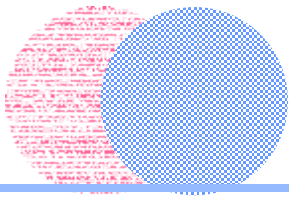
項目作成

日程調整



各委員の提案





一般市民

1. 目的

- ①一般市民が本事業に対して、どれくらい関心があり、賛否についてどのように考えているのかを把握するため。

2. 方法

- ①無作為抽出によって対象者を選定し、郵送による配付回収を行なう。

3. 項目

- ①東部海浜開発事業の内容についてどの程度理解しているか。
- ②事業に対するの賛否
 - 賛成の方
 - どのような計画を望むか
 - 事業を推進した場合の市民負担について
 - 反対の方
 - 何故反対か
 - 事業を中止した場合、今後泡瀬干潟をどのように活用・保全したいか。

1. 市民意識を知る。

事業の賛否
事業や環境の価値に対する理解度
事業に対する不安や期待

一般市民

1. 目的

- ① 事業や環境に対する理解度を知るため。

2. 方法

- ① アンケート調査で沖縄市全域を対象。
- ② アンケート項目は「会議」および「アンケート調査の手法に詳しい有識者」とで作成する。

3. 項目

- ① 項目の詳細は会議で決定するが、事業や環境に対する理解度について聞く。

1. 市民意識を知る。

事業や環境の価値に対する理解度
事業に対する不安や期待

1. 目的

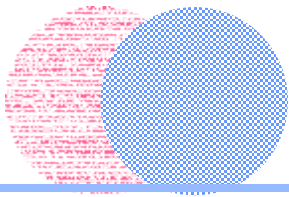
- ① 事業の是非や事業を進めることを前提としたものではなく、純粋な意識・認識度の確認をする。本事業と泡瀬干潟に関する意識調査。
- ② どの程度の知識・意識・期待があるのか。その程度によって何を市民に何を伝えなければならぬかを判断する材料とする。

2. 方法

- ① 年齢・性別・職業・立場・主義主張に関係なく無作為なアンケートが望ましい。
- ② 市役所にロビーに特設コーナーを設け、今までの関連資料(または分かりやすい資料)を掲示し、その場でアンケートに応じてもらう。または市役所内で順番待ちをしている人に声をかけ、アンケートに応じてもらう。どちらも1日ではなく数日間行なうことが望ましい。

3. 項目

- ① 事業の内容の知識について
 - ・ 目的は何なのか、どこで何ができるのか、事業主体は誰なのか、いつできるのかなどの程度知っているのか。
- ② 干潟の価値について
 - ・ 干潟とのかかわり、干潟の生物について、干潟の重要性の認識などの程度知っているのか
- ③ 沖縄市の課題について
 - ・ 沖縄市が今最もやらなければならないことは？
 - ・ どんな将来を望む？



市内在住の中学・高校生

1. 目的

- ①事業の是非や事業を進めることを前提としたものではなく、純粋な意識・認識度の確認をする。本事業と泡瀬干潟に関する意識調査。
- ②どの程度の知識・意識・期待があるのか。その程度によって何を市民に何を伝えなければならぬかを判断する材料とする。
- ③実際に「事業後」の沖縄を担う子供たちの関心を得ること、知識・意識を知ること、十分なサンプル数を確保すること。

2. 方法

- ①各学校に協力を依頼し、承諾してもらえた学校を対象にアンケートを行なう。
- ②各学校につき数クラスを対象とする。
- ③こどもの親を対象としたアンケートも可能なら実施したい。

3. 項目

- ①事業の内容の知識について
 - 目的は何か、どこに何ができるのか、事業主体は誰か、いつできるのか等どの程度知っているのか。
- ②干潟の価値について
 - 干潟との関わり、干潟の生物について、干潟の重要性の認識等どの程度知っているのか
- ③沖縄市の課題について
 - 沖縄市が今最もやらなければならないことは？
 - どんな将来を望む？
- ④上記から一部不適切なものを割愛、若年者向けの項目を追加して実施。

1. 市民意識を知る。

事業や環境の価値に対する理解度
事業に対する不安や期待



家庭単位

1. 目的

- ①影響や懸念の把握
- ②期待や施策の把握
- ③事業の理解度の把握
- ④市民に真剣に考えていただく材料の提供
- ⑤市民参画を促す。

2. 方法

- ①学生(中・高・大)に宿題として配付し、父兄と一緒に考えてもらうようにする。

3. 項目

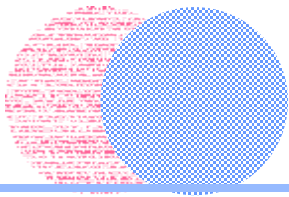
- ①是非とそれぞれの理由
- ②代替案(反対の方)
- ③中心市街地との連携策
- ④収支公開の必要性和有無
- ⑤事業の目標が達成されなかった場合の責任の所在は？(市民・市長・自治体・推進派)
- ⑥干潟、埋立現場の視察希望の有無
- ⑦当検討会議への傍聴参加の有無
- ⑧財政負担の仕組み(添付資料として)

1. 市民意識を知る。

事業の賛否
事業や環境の価値に対する理解度
事業に対する不安や期待

2. 広報をする。

情報公開
市民参画を促す



中心市街地で商売を営んでいる方

1. 目的

- ①影響や懸念の把握
- ②期待や施策の把握
- ③事業の理解度の把握
- ④市民に真剣に考えていただく材料の提供
- ⑤市民参画を促す。

2. 方法

- ①アンケート用紙を作成し直接現地でアンケート&ヒヤリング

3. 項目

- ①是非とそれぞれの理由
- ②代替案(反対の方)
- ③中心市街地との連携策
- ④収支公開の必要性和有無
- ⑤事業の目標が達成されなかった場合の責任の所在は？(市民・市長・自治体・推進派)
- ⑥干潟、埋立現場の視察希望の有無
- ⑦当検討会議への傍聴参加の有無
- ⑧財政負担の仕組み(添付資料として)

1. 市民意識を知る。

事業の賛否
事業や環境の価値に対する理解度
事業に対する不安や期待

2. 広報をする。

情報公開
市民参画を促す

泡瀬干潟という環境を事業者とは異なる調査によって理解している団体

1. 目的

- ①環境についての「客観的」な理解のため。

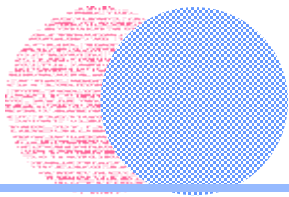
2. 方法

- ①相手は会議における指名あるいは立候補により決定。
- ②時間を制限しての説明。質疑応答。
- ③もしくは、委員数名でヒヤリングを行い、会議上で発表し、議論する。その際、相手側からの補足説明時間や質疑応答時間を設ける。

3. 項目

- ①事業者側との調査方法や結果の違い。
- ②反対派側の意見(学術団体からの意見書など)の集約

3. 事業者以外の
情報を収集する。



推進派・反対派の主要団体

1. 目的

- ① それぞれの主張の確認。我々が知らない情報をもっているかもしれない。主張の違いは観点の違いであり、どのような観点からすると有益であり、害があるのかを認識する。

2. 方法

- ① 各団体に電話等で打診し、時間、場所を設定した公開による公聴会方式、もしくはヒヤリングをする。(公聴会方式が望ましい)

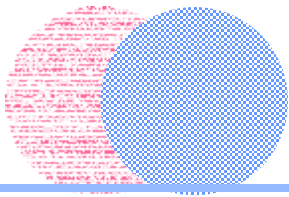
3. 項目

- ① それぞれの主義の理由、および活動状況について。
- ② 干潟の価値に対する意識。
- ③ 10年後・20年後のビジョン(事業実施・中止とも)。
- ④ 今後の沖縄市にとって必要な要素。

3. 事業者以外の
情報を収集する。

4. 争点の特定をする。

賛否の根拠の確認



推進・反対派の団体

1. 目的

- ① 埋立反対・賛成の根拠の再確認

2. 方法

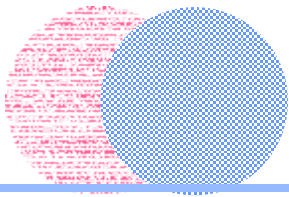
- ① 時間、場所を設定した公開による公聴会方式、もしくはヒヤリングをする。(公聴会方式が望ましい)
- ② 団体の概要及びその主張を話してもらい質疑応答を設ける。
- ③ 全委員参加

3. 項目

- ① 推進派
 - 東部海浜の真実について
 - これまでの経過について
 - 東部海浜開発の意義について
 - 事業計画の評価について
 - 出島方式による環境保全の見解について
- ② 反対派
 - 活動状況について
 - 環境アセスメントへの評価について
 - 環境保全と開発についての見解
 - 中部圏域の活性化についての見解

4. 争点の特定をする。

賛否の根拠の確認



推進派の各団体

1. 目的

- ① 事業を進める根拠を「客観的」に理解するため。

2. 方法

- ① 相手は会議における指名あるいは立候補により決定。
- ② 時間を制限しての説明。質疑応答。
- ③ もしくは、委員数名でヒヤリングを行い、会議上で発表し、議論する。その際、相手側からの補足説明時間や質疑応答時間を設ける。

3. 項目

- ① 事業推進に至る経緯
- ② 事業が成功する根拠

4. 争点の特定をする。

賛否の根拠の確認

環境保全にかかわる市民及び行政

1. 目的

- ① 地元で地道な活動を続けてこられた方から、その活動内容・干潟への思い等を聞く。
- ② また、沖縄市よりビオトープ型排水路の内容や実現に至る経路などを聞く。
- ③ 泡瀬干潟の雨水幹線に生かせる点はないか探る。
- ④ 市民の前向きな姿勢や熱意を感じ取る。

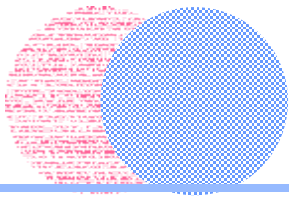
2. 方法

- ① できれば直接話を伺いたいのでヒヤリングか会議に出席していただく。

3. 項目

- ① 項目の詳細は会議で決定するが、事業や環境に対する理解度について聞く。
- ② ビオトープの案の内容、これからの予定など。
- ③ 何故スムーズに議会での意見を沖縄市が快諾したのか。

5. 市民と行政の連携の
具体例を知る。



沖縄総合事務局・沖縄県

1. 目的

- ① 沖縄総合事務局・沖縄県の意味・方針を聞く
- ② 事業に関する疑問を解くため

2. 方法

- ① できれば直接話を伺いたいので、ヒヤリングか会議に出席していただく。

3. 項目

- ① 浚渫と埋立について
 - 市として、国への工事の一時中断要請を検討したことがあるか。
 - 国の参画時、浚渫土砂の処分方法は埋立土砂量とぴたりと一致するのか。
 - 浚渫土砂量の年次計画はあるのか。
 - 新港地区埋立の使用に耐えられなかった土砂が、なぜマリンシティには使用できるのか。(技術革新?)
 - 様々な環境対策費用等で、当初予算をオーバーするのではないか。
- ② 新港地区について
 - 将来のビジョンと活用方法は?

1. 目的

- ① 埋立理由の再確認

2. 方法

- ① 時間、場所を設定した公開による公聴会方式、もしくはヒヤリングをする。(公聴会方式が望ましい)
- ② 項目についての説明を話してもらい質疑応答を設ける。
- ③ 全委員参加

3. 項目

- ① 埋立動機について
- ② 埋立の場所の選定について
- ③ 埋立の必要性について
- ④ 中城湾港計画の概要について
- ⑤ 埋立の規模について
- ⑥ 観光客誘致へのインパクトについて
- ⑦ 中部圏域の活性化について

6. 事業を知る。

埋め立ての根拠
事業の必要性
中部圏域の活性化